

令和3年度 第1回 健康横浜21推進会議 食育推進検討部会 議事録	
日 時	令和3年11月26日（金）15時～17時
開催場所	福祉保健研修交流センターウィリング横浜5階 研修室501-502
出席者	食育推進検討部会委員 11人 （飯笹委員、井上委員、岩本委員、大久保委員、金子（佳）委員、君塚委員、菅委員、長島委員、望月（悟）委員、守分委員、谷中委員）＜五十音順＞
開催形態	公開（傍聴者なし）
議 題	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介及び部会長選出 4 議事 （1）第2期横浜市食育推進計画最終評価に向けた目標値の収集状況について （2）第3期食育推進計画と第3期健康横浜21の一体的策定について （3）第3期健康横浜21骨子案の作成（食育分野）及び第3期食育推進計画の策定に向けた論点整理について 5 報告 （1）第2期健康横浜21等の計画期間の延長について （2）令和2年度 健康に関する市民意識調査の結果について （3）第2期横浜市食育推進計画に係る令和2年度の横浜市の取組状況について 6 その他 今後のスケジュールについて 7 閉会
決定事項	【部会長の選任】部会長に金子（佳）委員が選任された。
1 開会	
2 あいさつ	
3 委員紹介 及び 部会長選出	（事務局） 名簿順に紹介（資料1） 部会長の選任に入る。 資料2-2の要綱第5条第2項に基づき、互選にて会長の選出をお願いしたいが、御意見はあるか。 （守分委員） 食育フォーラムから会を進めていただいている、金子（佳）委員を推薦する。 （事務局） 守分委員から推薦があったが、金子（佳）委員どうか。 （金子（佳）委員） 他に推薦がなければ、了承。

	<p>(一同) 了承。 (事務局) それでは、金子（佳）委員にお願いしたい。部会長席への移動をお願いします。</p>
食育推進 検討部会に 関する説明	<p>(金子部会長) 本日は議題が多いが、限られた時間の中でできるだけたくさんの御意見をいただき、議論を進めたい。 まずは「食育フォーラム」から「食育推進検討部会」に変更となった点について、詳細を事務局から説明をお願いしたい。 (事務局) 資料２－１に基づき説明 (金子部会長) この件について何か質問はあるか。 (岩本委員) 食育推進検討部会委員の中に推進会議や他の部会に参加する委員はいるか。また、それぞれどのような構成なのか。 それぞれの計画で重なる部分、重ならない部分はどのようなまとめ方をするのか。 (事務局) 推進会議及び他の部会の委員の皆様の名簿については後日共有する。また、食育推進検討部会委員からは、守分委員に健康横浜２１推進会議と歯科口腔保健推進検討部会の委員を兼任いただいている。 計画の重なる部分と重ならない部分については、後ほど議事(2)で御説明する。  (金子部会長) 議事に時間をかけたいため、先に報告事項から説明をお願いしたい。</p>
5 報告	<p>【報告１】第２期健康横浜２１等の計画期間の延長について&lt;資料６&gt; 事務局から資料６について説明</p> <p>質疑なし</p> <p>【報告２】令和２年度 健康に関する市民意識調査の結果について&lt;資料７&gt; 事務局から資料７について説明</p> <p>(金子部会長) この件について質問等はあるか。 (長島委員) インターネットの調査と、郵送でのアンケート調査では対象者にばらつきが出ないか。インターネット環境の有無や、住民票を移していないなどの理由で郵送物が届かない人がいた場合、横浜市民をくまなく対象としていると言えるか。また、対象者のばらつきについてどの程度意識しているか。</p>

(事務局)

健康に関する市民意識調査は、市民の状況を把握するといった意味もあるが、そもそも健康横浜21の評価のための調査という位置づけである。よって、健康横浜21を策定した際の平成25年、中間評価の平成28年と同じやり方でないと評価につながらないため、同様の方法をとっている。平成25年の調査当時はインターネットによるモニター調査と郵送による無作為調査を併用し、人数を確保したうえで、居住区や年齢、男女のバランスについて均等となる方法をとったが、今後の計画においては実施方法を含めて検討していきたい。

(岩本委員)

食事バランスの「悪化」が気になる。

コロナの影響に関する質問では、食事バランスについて一番関心が高まったという結果だったが、横浜市としてはどのように判断しているか。

(事務局)

後ほど、議事(1)で第2期食育推進計画の目標値の評価について説明する。

資料7の調査結果概要の冒頭にある「悪化」と「関心の高さ」の違いについては、実際の「行動」と「意識」による差があるとみられる。

(望月委員)

年代や性別などで差があると思うがどうか。

(事務局)

データ量が多いため今回は配布していないが、年代別や性別、区別などの細かい分析データは横浜市ホームページに掲載しているので御確認いただきたい。

(金子部会長)

「悪化」という表現が気になる。工夫できないか。

(大久保委員)

コロナで巣籠もりしていたことで、健康に対する意識は高まっている。「悪化した」というより「改善を意識している」ことについて、今後もその傾向を継続していこうという一言を添えてもよいのではないか。

**【報告3】** 第2期横浜市食育推進計画に係る令和2年度の横浜市の取組状況について<資料8>

事務局から資料8について説明

(金子部会長)

この件について質問があればお願いしたい。

(岩本委員)

コロナの影響で実施できなかった事業があったとのことだが、その中でも工夫して実施できた取組があれば紹介してほしい。

(事務局)

保健事業課では、対面で行っていた事業を電話などの非対面で行えるようにするなどの工夫をした。その他も資料に記載のほとんどの取組は工夫して実施している。

(大久保委員)

横浜の食文化として、学校の献立での地産品の活用などだけでなく、それ以外に力を入れた取組、特に高齢者向けの活動実績があれば紹介してもらいたい。

(事務局)

食文化については確かに他に比べて少し弱い分野かと思う。次期計画策定にあたってはそこも踏まえて検討していきたい。

(大久保委員)

カレーやラーメンなど、食をテーマにしたアミューズメント施設があることを考えると、朝食のような捉えようのないものでの取組ではなく、横浜のソウルフードのようなものにポイントを絞った方が食事に関する市民の関心もあがるのではないか。

(守分委員)

横浜市の委託事業として、食生活等改善推進員が一区あたり年12コマの授業を行っている。その中で年代別に目標があり、それに沿って活動してきた。現在は、今までのように試食を交えて楽しんで食事をしようという取組はできないが、各区が都度資料を工夫して作成してくれたものを利用して活動を行っている。

(金子部会長)

食事についての地道な活動は継続して行っているということである。

大久保委員が発言された中に、横浜のソウルフードがあれば市民の関心が高まるという話があった。横浜と言うとやはりシウマイではないかと思うが、君塚委員から何か御意見はあるか。

(君塚委員)

「食文化の継承」についてだが、横浜の歴史は浅く、150年程度である。崎陽軒において、横浜に名物がないから何かつくろうとして作ったのがシウマイ。

また、昔からあるものが健康にいいとは限らない。横浜の良さは、いろいろなところから様々なものが入ってきて、いろいろな知恵が詰まっている点である。横浜は歴史が浅いからこそ、文化という意味では歴史と違う観点で、名物をこれからつくろうという取組でもよいのでは。

(井上委員)

横浜は生産よりも消費がメインで、地産地消は進んでいる方だと言える。地域ならではの食材を集めるのは大変だという声も聞くので、ソウルフードというものができにくいのかもしれない。

(守分委員)

今のお話のとおり各区での生産状況には偏りがある。たとえば保土ケ谷ではじゃがいもの生産が盛んで、地元の名産に帷子餅などがある。食生活等改善推進員もこのような各区の昔ながらのものを他にも探し、啓発したいと思っている。

(大久保委員)

以前、せっかく横浜の食を盛り上げるなら、体に良いものや高齢者の食べる力を保たせるものなどがいいのではないかと提案させていただいた。各区の美味しいお店などで「健康横浜21認定」のような健康的な名物をつくれればよいのではないか。

	<p>(飯笹委員)</p> <p>自身も地産地消の料理の提供をしているところであるが、横浜は特産物がなかなかなく、あるいはあっても生産量が少なくて難しい。横浜は発祥の地であることもあり、アイスクリームはどうかと考えている。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>こういった話題だとアイデアがたくさん出てくるが、最後に事務局から一言をもらって次の議題に進めたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>先ほど健康的な食品を提供するお店を紹介するような取組はどうかという御提案をいただいたが、実は「よこはま健康応援団」という、ヘルシーなメニューを提供しているお店などを認定する事業があり、ホームページで紹介している。制度の認知度や掲載情報の鮮度などに課題がある。今後次期食育推進計画を策定していく中で、食文化の継承についてと併せて、委員の皆様にご意見をいただきながら考えていきたい。</p>
<p>4 議事</p>	<p>【議事1】第2期横浜市食育推進計画最終評価に向けた目標値の収集状況について&lt;資料3&gt;</p> <p>事務局から資料3について説明</p> <p>(金子部会長)</p> <p>この議事に関しては、次回の部会で詳しく議論するというのを踏まえて、何か御質問はあるか。</p> <p>(長島委員)</p> <p>「悪化」について、高齢化などの社会状況も影響があるのでは。たとえば一人暮らしの高齢者が免許の返納などで買い物に行きにくくなってしまったり、そういった方をケアする人員が少なかったりといった、地域性なども課題だ。今回はそのようなことも踏まえて検討にあたりたい。</p> <p>(望月委員)</p> <p>「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合」の項目について、今後改善する要素はあるのか。重要性が高いということは理解できるが、今現在の「悪化」といわれる結果がそんなに深刻なことだと思えない。目標値を高め設定しなくてもよいのでは。</p> <p>(事務局)</p> <p>「主食・主菜・副菜～」について、難しく捉えられる方もいるとは思いますが、数値目標については国でも同じ項目で掲げている目標があるため、同等値かそれ以上を意識して、皆様の力をお借りしながら頑張りたいと考えている。</p> <p>(君塚委員)</p> <p>このテーマの評価は国も3割～4割という実績なのか。また、現状値に対して目標がなぜこれほど高く設定されているのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>資料5-6として国の第4次食育推進基本計画の概要を用意している。御指摘いただいた「主食・主菜・副菜～」の現状値について、国も令和2年度36.4%と低い数値</p>

だが、横浜市は更に低い。また、国の目標値は50%であるが、横浜市は第2期食育推進計画を策定した際にはそれよりも高めに設定していたという状況である。

(君塚委員)

そもそも「1日2回以上、主食・主菜・副菜すべてを毎日食べる」という項目は答えるのが非常に難しい質問で、正確に答えようとする、自分はきちんと食べられていないかもしれないと遠慮してしまうのではないかと。そうすると、自信をもって「食べられている」と答えられる人だけの割合になるため、3割～4割になってしまう。この数値は実際の食生活とかけ離れてしまう可能性があるため、質問の表現を考えた方が良くはないか。

(長島委員)

食事バランスガイドを知らない方も多し。もっと具体的に、何をどれくらい食べていますかという質問であれば、数値としてもかなり正しいものが出るのではないかと。

(事務局)

今、御覧いただいている資料3-2は、食育推進計画の指標となっている項目のみを記載しているが、実際の市民意識調査では食事バランスガイドの認知度についての項目もあり、また「主食・主菜・副菜～」の質問についても例示している。国も同じ項目で調査をしており、全国と横浜市の比較をするにあたって国の表現とあまり乖離できないが、実態を知るものと調査として捉えるものをそれぞれ別物として今後検討していかなければならないと考える。

【議事2】第3期食育推進計画と第3期健康横浜21の一体的策定について<資料4>

事務局から資料4について説明

(金子部会長)

議事の2と3は重なる部分があるので、すべて事務局から説明した後に質疑に移る。

【議事3】第3期健康横浜21骨子案の作成(食育分野)及び第3期食育推進計画の策定に向けた論点整理について<資料5>

事務局から資料5について説明

(金子部会長)

健康横浜21の中の食分野について、この部会で議論をする。「誰もが自然と健康になれる」食環境を整えるという点で議論を進めていきたい。

(岩本委員)

資料4の「趣旨」はどの計画を指すのか。また、資料4の参考にある「分離再掲」とすることは決定事項か。

(事務局)

計画は「第3期健康横浜21」を指す。また、分離再掲については本部会における相談事項であり、御意見を頂戴したい。

(岩本委員)

食育も他と同様に計画を作るといふことでよいか。

(事務局)

章立てして食育推進計画を策定していく。

(井上委員)

資料4の次期計画イメージ案について、食育の項目のみでは検討しにくいので、他の計画の提示も欲しい。

(事務局)

他計画の提示も想定していたが、今回は敢えて食育だけを取り上げて説明した。今後検討を進めていくにあたり、他の計画の内容も関わるため、後日提示する。

(井上委員)

資料5-4について、「手頃な価格」については、横浜市は生産が少ないため難しい。国の計画と多少のずれがあっても致し方無いのではないかと。

(事務局)

御意見いただいた「手頃な価格」という表現は、端的かつ抽象的でわかりにくいですが、実際に取り組む「食環境」については、地産地消の観点だけでなく、小売店で提供される商品も含まれる。幅広く捉えていただき、御意見いただきながら考えていきたい。

(長島委員)

資料5-3の議事録P5、土屋委員の「早寝早起き朝ごはん」について。PTAでは文科省と一緒に10年以上前から取り組んでいる。アンケート調査などで、児童生徒の朝食欠食は、取組前に比べて少なくなっている。こうしてこどもの頃にせつかく朝食が習慣づいたのに、なぜ20代30代の朝食欠食率は悪化してしまうのかというのが課題である。

また、子どもたちに食育を啓発するにあたり、家庭環境的に難しい子どももいる。「主食・主菜・副菜～」の質問をして「×」しかつけられないような貧困層が横浜にもいることの認識の低さも課題である。食環境整備について「自身の健康関心度等の程度にかかわらず、自主的かつ合理的に、又は自然に選択でき、手頃な価格で購入し、ふだんの食事において利活用しやすくする」という目標はその通りだが、一定の経済状況以上の家庭が対象とならないように、貧困層への心配りが必要である。

(君塚委員)

資料5-6の3枚目にある重点事項、「国民の健康の視点」と「社会・環境・文化の視点」の間に記載されている、「連携」という点が食育で大切なところではないか。目標が溶け込みすぎると評価しにくくなることは理解できるため、分離再掲は良いと思う。だが、資料5-5のように分けるとわかりやすくして数値も取りやすいが、目標案はもっと「連携」をわかりやすくしなければならない。連携させすぎると評価が難しくなる点もあるかと思うが、そこを考えなければならないのではないかと。

また、資料5-5の(5)(平常時からの備蓄)の表現はわかりにくいと思う。知識をため込む、という点からも「備え」でよいのでは。

(大久保委員)

資料5-5について。目標案の表現が硬い。また、健康的な食事はおいしくないと思われがちなので、健康と美味しさは両立できるというメッセージ性を持たせてはど

	<p>うか。安全かつお金をかけずに、美味しく楽しく健康にという方向性をどのようにバランス良くまとめるかというのが、計画の骨子になっていくのではないかと考える。</p> <p>(岩本委員)</p> <p>次期計画は令和6年度からスタートということだが、開始時期に関わらず、こどもたちの食の現状にも目を向けていただき、緊急な措置が必要なときには柔軟に対応してほしい。</p> <p>(谷中委員)</p> <p>資料4について。三位一体となって計画立てることはすばらしい取組であるのでぜひ進めてほしい。健康な生活でないと食べることもできないし、食べるためには歯や口が大切である。</p> <p>資料5-3の議事録、後藤委員の発言でゲームやスマートフォンを利用することもについて触れているが、これは若い世代や社会人も同様で、睡眠時間が短くなるために朝食を食べないなどの影響がある。農協としては地産地消を中心とした活動をしているが、やはり健康が一番であり、健康な生活環境が整えられないと食事、歯の環境にも影響する。どれ一つ欠けても成り立たないものであるので、どの計画も十分に協議して進めていただきたい。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>時間となったため、この他、もし御意見等があれば事務局に直接お伝えいただきたい。それでは、本日の議題は以上となる。</p>
6 その他	<p>【その他】今後のスケジュールについて事務局から説明</p>
7 閉会	